

子どもたちの笑顔を守る

沖縄県立普天間高等学校 二年 太田 芽依美

私は休日になると、よく幼稚園児の弟と家の近くの運動公園に行く。最近は私が忙しくてあまり連れていけていなかったのだが、ある日、久しぶりにその公園に行くと、三つある遊具のうち、二つが立入禁止になっていた。そのうちの一つは弟がよく気に入っていたもので、弟はとても悲しんでいた。結局、弟は他の遊具に遊びに入ったのだが、私は弟の悲しそうな表情がしばらく頭から離れなかった。そのとき、私は初めて公園がなかったらどうなるだろうと考えた。とても身近で私たちが小さい頃から当たり前のようにある公園。私も小さい頃よく友達と鬼ごっこをしたり、家族でピクニックをしたりしていて、たくさん思い出が詰まっている場所だ。そして今も、子どもたちの明るい声が聞こえるところまで楽しい気持ちになる。公園は私にとってあって当たり前のもので、どうやって運営されているかなど考えたこともなかった。

公園が税金によって整備されていることは知っていた。調べてみると、公園の整備は国の財政の歳出のうちの「公園事業関係費」に含まれるらしい。公共事業関係費は歳出総額112兆5,717億円のうちの5.4%の6兆628億円であることが分かった。また、「公園の整備」と聞けば遊具のイメージが強かったのだが、それだけではない。芝生の草を刈ったり、公園に設置されている水道やトイレを綺麗にしたり、ゴミ箱に溜まったゴミを回収するのも税金が使われていることを知った。確かに、私がよく利用する公園はいつ行ってもとても綺麗だ。草が生い茂っていたり、ゴミで溢れ返ったりしていて使いづらかった覚えはない。いつも公園が子どもたちの笑顔で溢れているのは税金のおかげなんだと強く実感した。また、私の弟は公園に行くときによく怪我をし、水道で足を洗うことが多い。その水が汚れていたらとても大変な思いをしていたに違いない。特に小さな子どもがよく利用する公園では、私の弟のように怪我をしたり、熱中症予防で水道水を飲むことも多いはずだ。当たり前綺麗に水道水が使えていることに感謝しなければならないと思った。

私は正直、今まで税金にあまり良いイメージを持っていなかった。税についての知識がないまま、大人たちが言う「増税反対!」の声に意味もなく同意し、税金は悪いものとはばかり思っていた。しかし、税金は私たちの当たり前の暮らしを守る無くてはならないものだという事に気づいた。もし、公園がなかったら、私たちの大切な思い出は無かったことになってしまう。また、最近では小さな子どものゲーム依存が問題となっている。だからこそ、大切なコミュニティの場となる公園を無くす訳にはいかない。

今日も公園から子どもたちのにぎやかな声が聞こえてくる。この子どもたちの笑顔をいつまでも守るために。私も大人になるまでに税の知識をもっとつけ、責任をもって納税できる大人になろう。